



「ワールドクラスへの飛躍」と 「復興・新生の先導」を目指して

東北大学総長 里見 進

東北大学は、1907年(明治40年)の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、卓越した教育研究拠点としての歴史を築いてきました。本冊子では、2012年度における本学の様々な取り組みの中でも特筆すべき成果を紹介しています。

早いもので一昨年3月11日に起こった東日本大震災の惨禍から2年が過ぎました。東北大学は被災地の中心にあった総合大学として東北の復興のみならず、震災前から停滞感のあった我が国全体の新生に力を発揮すべき使命があります。

昨年4月総長に就任する際に掲げた「東北の復興・日本新生の先導」、「ワールドクラスへの飛躍」の2つの目標を着実に遂行していきたいと思います。

第一に「ワールドクラスへの飛躍」のため、教育・研究面での明確な課題設定を行います。教育面では、激動する現代社会の中でリーダーとなる人材に求められるリベラルアーツとは何かということ問い直し、それを確実に身に付けられる環境を整えます。諸外国の人々と対等に議論できる語学力とコミュニケーション能力を備える人材、国際社会のリーダーとして活躍できる人材を輩出していきます。一方、研究面では、研究科や研究所ごとにその現状と課題を分析し、変革の方向性を明確にしたうえで着実な機能強化を図ります。今年の4月に「学際科学フロンティア研究所」を整備するなど、さらに大学全体として、より総合的・学際的な視座から人類共通の課題を明らかにするとともに、その解決のために総力を結集して取り組んでいきます。

第二に、「東北復興・日本新生の先導」の役割を果たしていきます。被災地では復興の兆しが見え始めているものの、いまだ本格的な復興へのビジョンは描ききれていません。東北大学は被災地の中心にある総合大学として、新技術の開拓や産業の育成などを通して復興の先導役となることが求められています。すでに、震災直後に立ち上げた「東北大学災害復興新生研究機構」の諸活動を通して、「災害科学国際研究所」の新設や「東北メディカル・メガバンク機構」の発足、医療関係者を再教育するシステムや地域医療を担う人材を育成する組織の設置、「耐災害 ICT 研究センター」の発足など、復興・新生へ向けた多様なプロジェクトを推進してきました。今後も、オールジャパン、さらにはグローバルに広がる協力体制を構築し、世界の英知を結集してこの難局を乗り越えていく決意です。

東北大学がその使命を果たし、引き続き人類社会の持続的発展に貢献していくためにも今年度は、上記の2つを目指すべき方向性としたビジョンを策定し、それを実行したいと考えています。これは、国内外の動向を展望し、現在に至るまでの本学の強み・弱みと可能性を見極めて、本学の5年後のあるべき姿とその実現の柱となる施策・工程表を定めるものです。国内初の女子学生入学100周年という節目を迎えた東北大学が果たすべき使命、取り組むべき活動を皆様にご理解いただき、多くの方々とともにその実現に努めることにより、平和で公正な人類社会の発展に貢献していく所存です。

2012年4月～2013年7月のレポート

2012年(平成24年)		
4月	1日	里見進第21代総長就任
4月	1日	災害科学国際研究所設立
4月	5日	平成24年度東北大学入学式
7月	30、31日	オープンキャンパス
9月	25日	東北大学学位記授与式
10月	6日	東北大学ホームカミングデー
10月	20日	教育情報学研究部・教育部 創立10周年記念行事
11月	2～4日	‘12東北大学祭
11月	22日	環境科学研究科 創立10周年記念行事
11月	30日	情報科学研究科 創立20周年記念行事
12月	10日	東北メディカル・メガバンク機構 地域支援センター開所
2013年(平成25年)		
2月	25、26日	平成25年度東北大学一般選抜入学試験「前期日程試験」
3月	12日	平成25年度東北大学一般選抜入学試験「後期日程試験」
3月	27日	東北大学学位記授与式
4月	1日	学際科学フロンティア研究所発足
4月	1日	リーディングプログラム学生認定式
4月	4日	平成25年度東北大学入学式
7月	30、31日	オープンキャンパス

